


2024年12月期  
第1四半期  
決算説明資料



2024年5月24日  
株式会社やまびこ



<b>1. 2024年12月期 第1四半期 決算概要</b>	<b>3</b>	<b>APPENDIX</b>	<b>20</b>
2024年12月期 第1四半期 経営成績	4	会社概要	21
2024年12月期 第1四半期 販売状況	5	やまびこの歩み	22
連結売上高および連結営業利益の増減	6	業績推移と売上構成	23
四半期別業績推移	7	事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	24
セグメント別経営成績	8	事業セグメント：農業用管理機械	25
売上高実績（セグメント・地域別）	9	事業セグメント：一般産業用機械	26
		国内生産体制	27
<b>2. 2024年12月期 業績予想</b>	<b>10</b>	海外生産体制	28
2024年12月期 通期予想	11	販売体制	29
連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）	12	主要販売子会社：やまびこジャパン株式会社	30
連結営業利益の増減予想	13	主要販売子会社：エコー・インコーポレイテッド	31
売上高目標（セグメント・地域別）	14	主要販売子会社：やまびこヨーロッパ・エス・エイ	32
設備投資・研究開発費・減価償却費	15	主な販売経路	33
株主還元政策	16	国内・海外のユーザー	34
トピックス①	17		
トピックス②	18		

# 1

## 2024年12月期 第1四半期 決算概要

## 2024年12月期 第1四半期 経営成績

- 売上高は前年同期比で増収。主力の北米OPE※がホームセンター向けを中心に伸長し成長を牽引。
- 損益面についても、原価低減の取組みや国内外での価格改定効果に加え、円安による追い風もあり、営業利益、経常利益、最終利益のいずれも前年同期比で増益。

売上高  
**40,805**百万円  
(前年同期比 +5.0%)

営業利益  
**6,119**百万円  
(前年同期比 +1.5%)

親会社株主に帰属する  
四半期純利益  
**5,535**百万円  
(前年同期比 +44.5%)

(百万円)	23/12期 1Q 実績	構成比 (%)	24/12期 1Q 実績		
			構成比 (%)	前年同期比 (%)	
売上高	38,861	100.0	<b>40,805</b>	<b>100.0</b>	<b>+ 5.0</b>
売上原価	25,062	64.5	<b>26,312</b>	<b>64.5</b>	<b>+ 5.0</b>
販管費	7,772	20.0	<b>8,373</b>	<b>20.5</b>	<b>+ 7.7</b>
営業利益	6,026	15.5	<b>6,119</b>	<b>15.0</b>	<b>+ 1.5</b>
経常利益	5,913	15.2	<b>6,792</b>	<b>16.6</b>	<b>+ 14.9</b>
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,831	9.9	<b>5,535</b>	<b>13.6</b>	<b>+ 44.5</b>

### ■ 為替レート

1ドル	133 円	<b>147 円</b>	<b>+ 10.3</b>
1ユーロ	143 円	<b>161 円</b>	<b>+ 12.5</b>

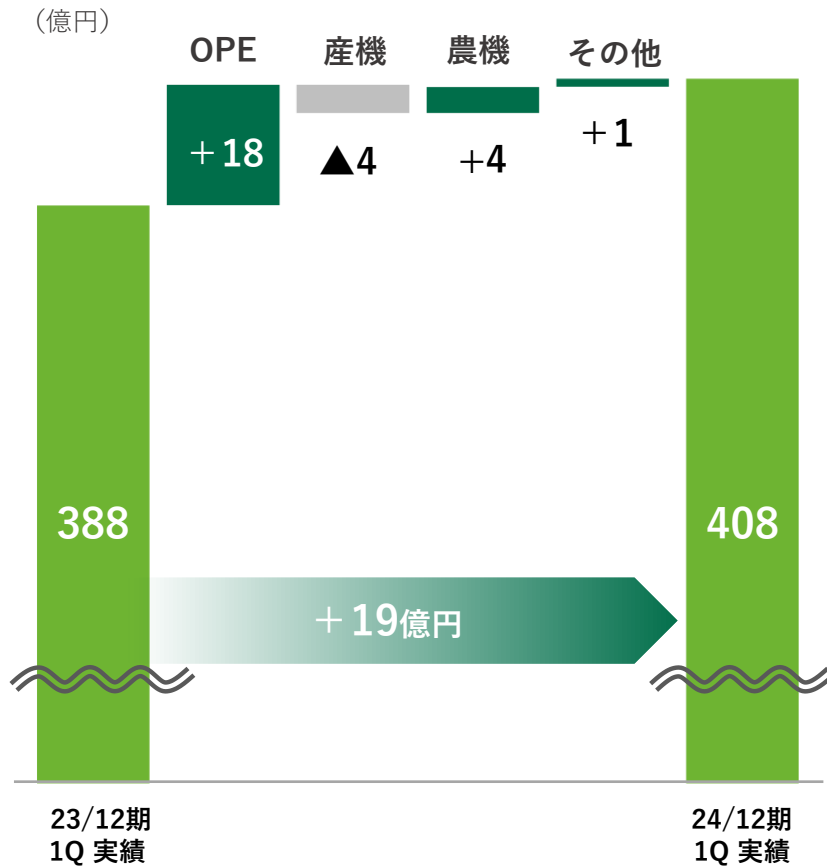
※ 「OPE」 = Outdoor Power Equipment

## 2024年12月期 第1四半期 販売状況

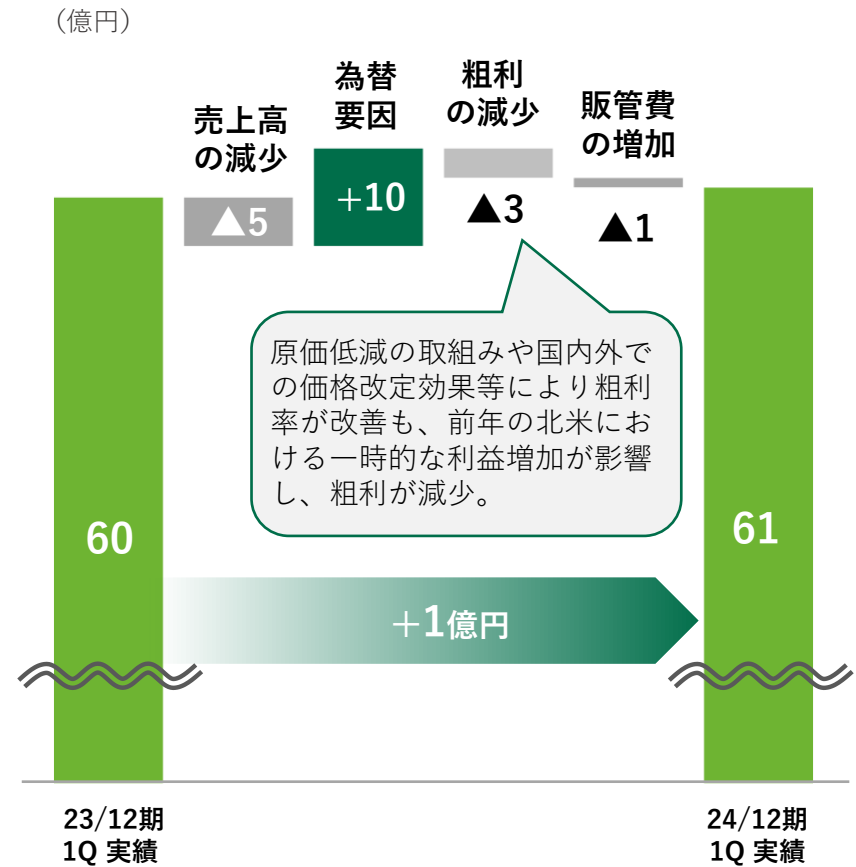
(百万円)		23/12期 1Q 売上高	24/12期 1Q 売上高	前年同期比	概要	(ご参考) 前年同期比 ※為替影響除く	
小型屋外 作業機械 (OPE)	国内	3,526	<b>3,303</b>	▲ 6.3%	一部製品における出荷の持ち越しや、資材高騰による農業従事者の購買意欲の回復遅れを背景に減収。	▲ 6.3%	
	海外	北米	19,379	<b>23,610</b>	+ 21.8%	堅調な個人消費を背景にホームセンター向けを中心に伸長し増収。	+ 8.5%
		欧州	4,317	<b>2,603</b>	▲ 39.7%	景気停滞の継続に加え、代理店在庫が高水準となっていることから販売が減少。	▲ 46.9%
一般産業用 機械	国内	2,513	<b>2,715</b>	+ 8.1%	発電機の販売が伸長したことに加え、昨年まで落ち込んでいた溶接機の販売が回復傾向となり増収。	+ 8.1%	
	海外	1,834	<b>1,194</b>	▲ 34.9%	北米市場において発電機の高い需要が続いているものの、一部製品の改修による影響を受けて減収。	▲ 40.2%	
農業用 管理機械	国内	3,457	<b>3,954</b>	+ 14.4%	遠隔操作可能な草刈機や、国内初の乗用型鶏舎向け防除機に加え、省力化に寄与する畦草刈機等の販売が好調に推移したことで増収。	+ 14.4%	
	海外	1,765	<b>1,670</b>	▲ 5.4%	高い金利水準が続くなかで一部販売店に在庫圧縮を図る動きが見られ減収。	▲ 15.5%	

# 連結売上高および連結営業利益の増減

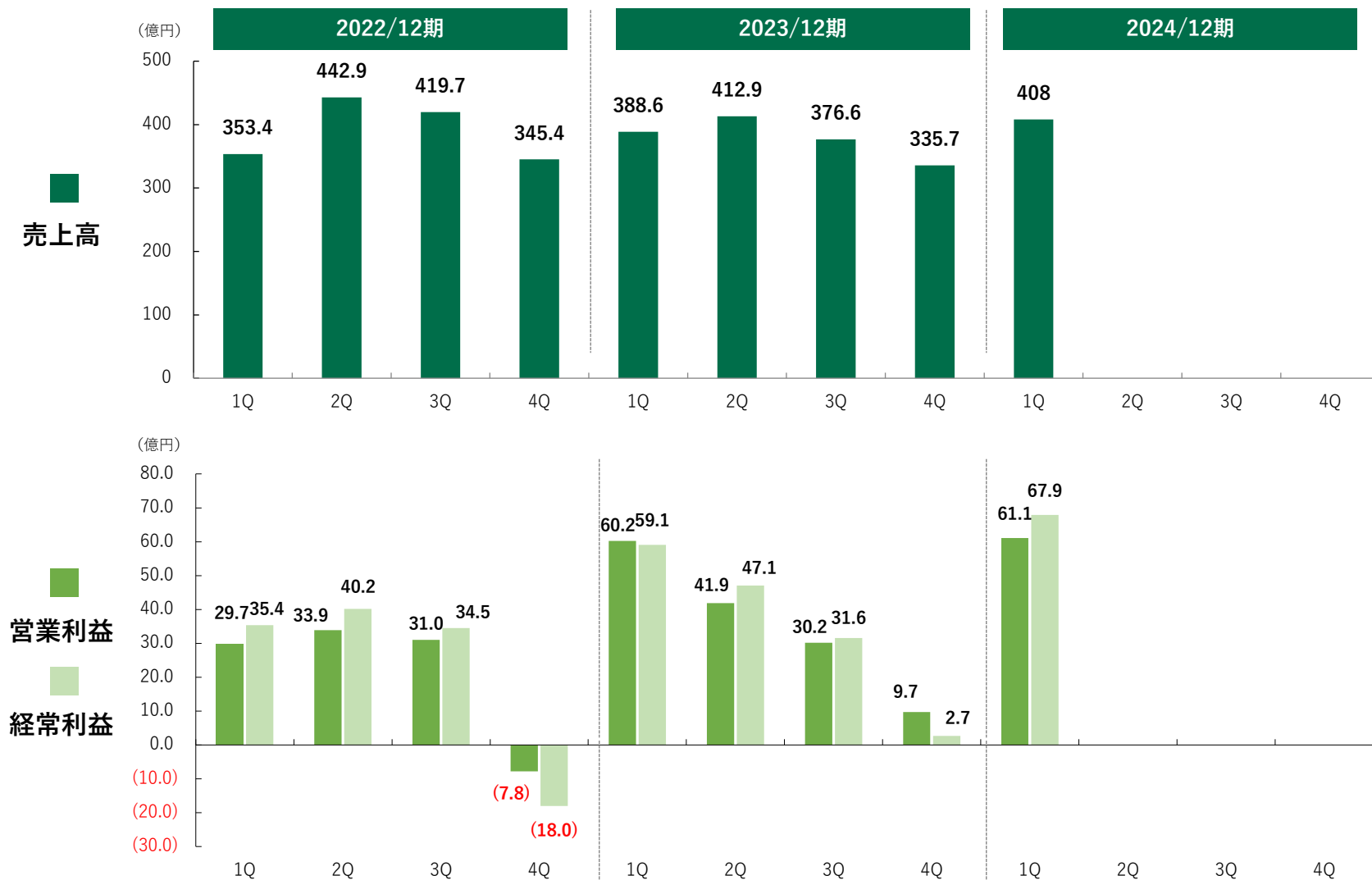
## 売上高



## 営業利益



# 四半期別業績推移



## セグメント別経営成績

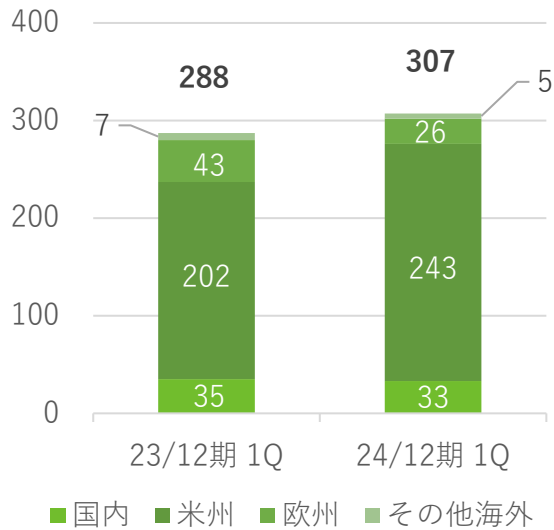
(百万円)	23/12期 1Q 実績		24/12期 1Q 実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	38,861	100.0	40,805	100.0	+ 5.0
小型屋外作業機械	28,892	74.3	30,742	75.3	+ 6.4
一般産業用機械	4,347	11.2	3,910	9.6	▲ 10.1
農業用管理機械	5,222	13.4	5,625	13.8	+ 7.7
その他	398	1.0	527	1.3	+ 32.3
営業利益	6,026	-	6,119	-	+ 1.5
小型屋外作業機械	7,518	124.8	8,119	132.7	+ 8.0
一般産業用機械	666	11.1	361	5.9	▲ 45.9
農業用管理機械	229	3.8	190	3.1	▲ 17.0
その他	34	0.6	86	1.4	+ 146.9
全社共通費	▲ 2,422	-	▲ 2,637	-	-



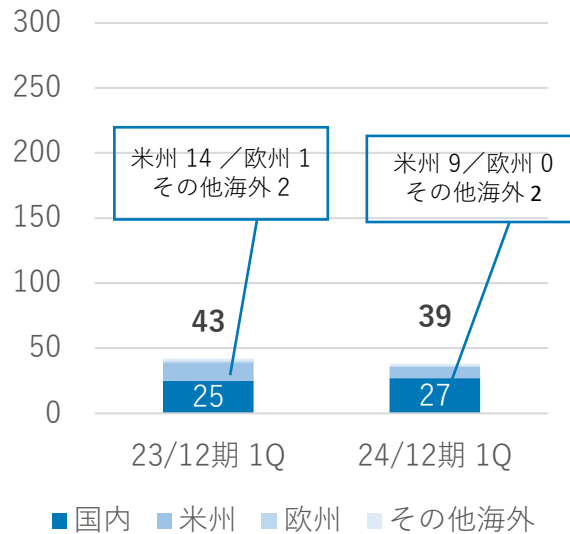
# 売上高実績 (セグメント・地域別)

(単位：億円)

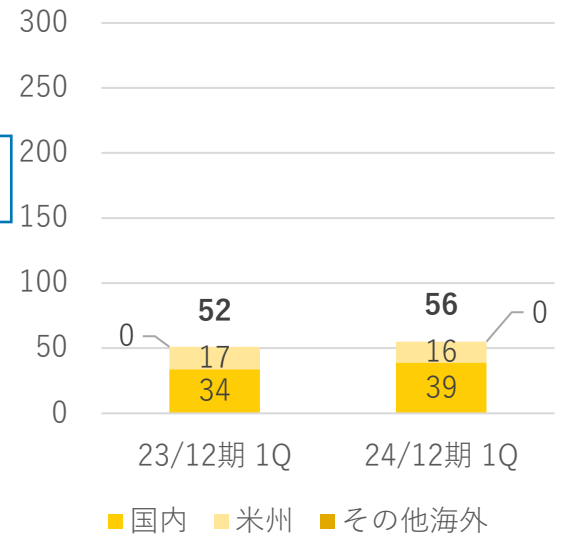
## 小型屋外作業機械 (OPE)



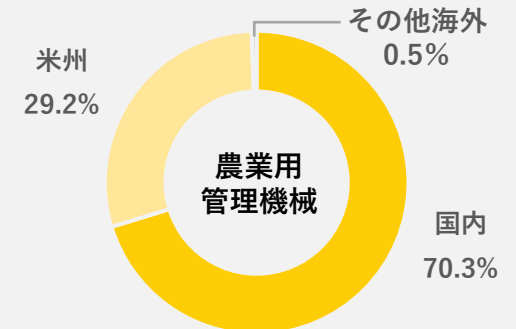
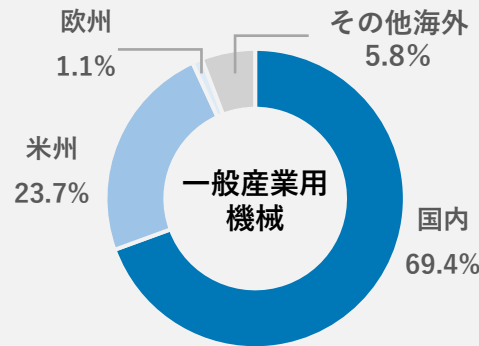
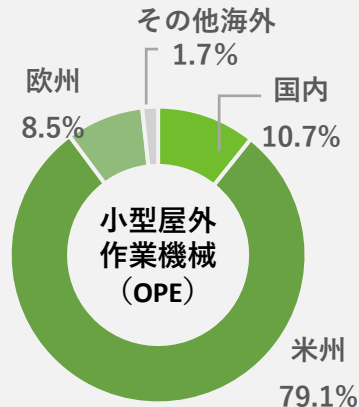
## 一般産業用機械



## 農業用管理機械



## 地域別比率 (2024年12月期第1四半期)



2

**2024年12月期  
業績予想**

## 2024年12月期 通期予想

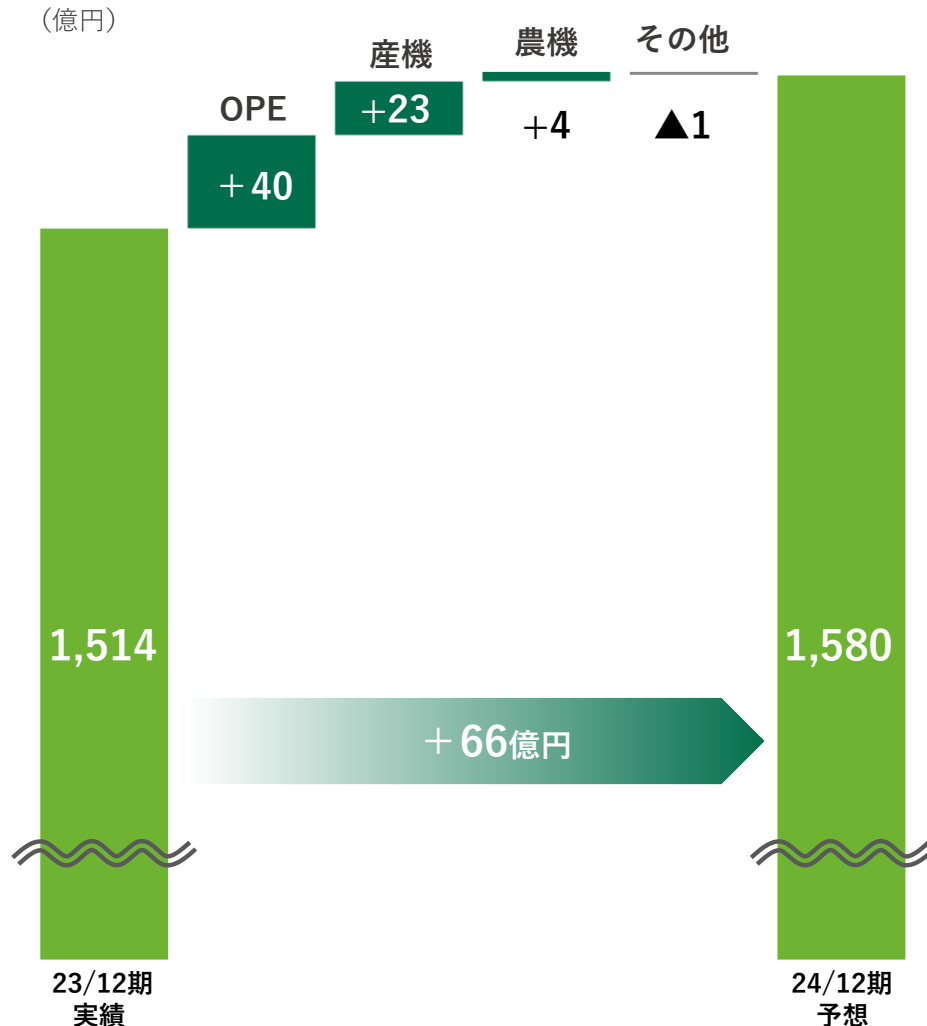
- 売上高は、海外OPEでは北米のホームセンター向けが順調に推移する見通し。また、国内は新製品販売が好調な農業用管理機械に加え、一般産業用機械にも回復が見られるため、増収を見込む。
- 損益面は、価格改定や継続的な原価低減の取組みにより収益率改善に努め、営業利益は前期と同水準の143億円、経常利益は138億円を見込む。また、海外子会社の清算に係る特別損失が収束することなどから最終利益も増益の見通し。

(百万円)	23/12期 実績		24/12期 予想		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年比 (%)
売上高	151,400	100.0	158,000	100.0	+ 4.4
売上原価	104,095	68.8	107,700	68.2	+ 3.5
販管費	33,073	21.8	36,000	22.8	+ 8.8
営業利益	14,230	9.4	14,300	9.1	+ 0.5
経常利益	14,066	9.3	13,800	8.7	▲ 1.9
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,097	6.0	10,000	6.3	+ 9.9

### ■ 為替レート

1ドル	141 円	140 円	▲ 0.6
1ユーロ	151 円	150 円	▲ 0.7

## 連結売上高のセグメント別増減予想（円換算ベース）



### 小型屋外作業機械(OPE)

持続的成長を続ける緑地管理市場に支えられ、米欧市場の安定的な成長を予想。特に北米においてホームセンター向けが順調に推移し、増収の見通し。

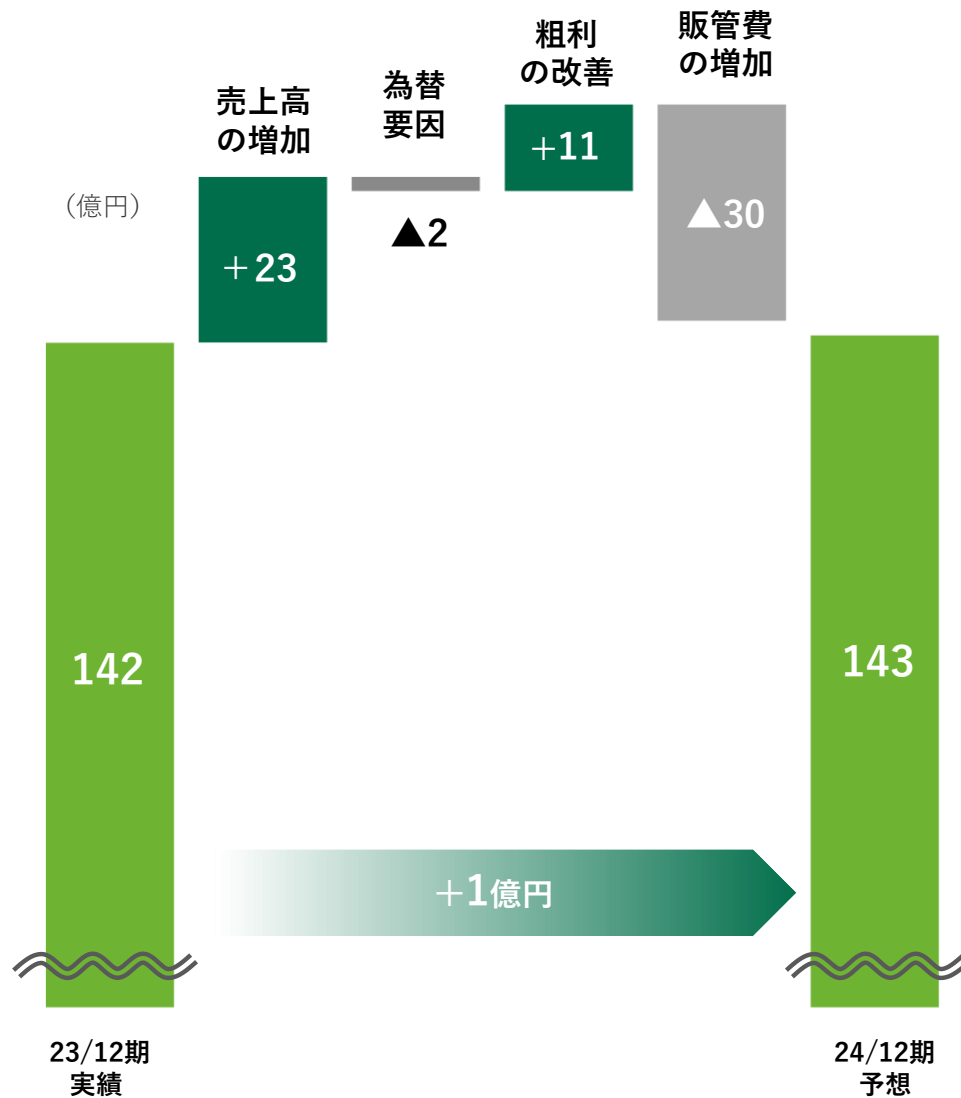
### 一般産業用機械(産機)

安定したインフラ需要が続く北米市場において、広域レンタル会社を中心とした販売拡大を図るほか、国内においても回復傾向が見られることから増収を見込む。

### 農業用管理機械(農機)

国内において新製品販売が好調に推移していることから増収を見込む。

## 連結営業利益の増減予想



### 売上高要因

為替の影響を除いた実質売上高の増加による利益増。

### 為替要因

主に実績レートと計画レートの差異による利益の減少。

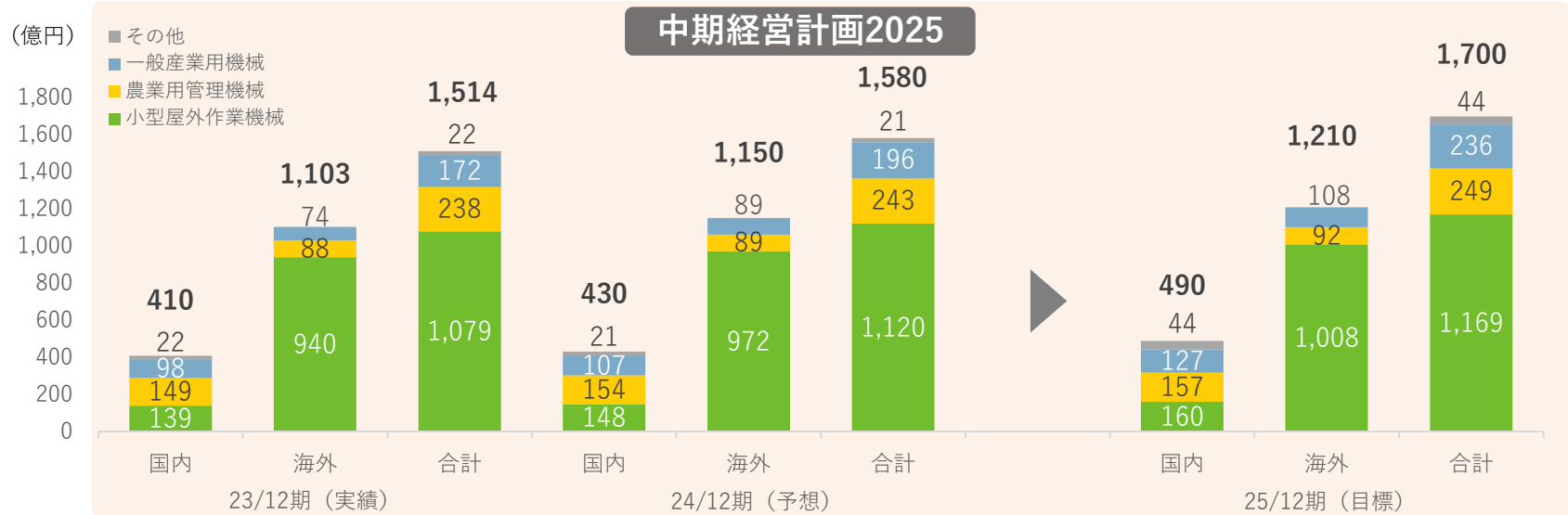
### 粗利

価格改定や製品構成の見直しに加え、海上運賃低下が年間を通じて寄与することなどから粗利が改善。

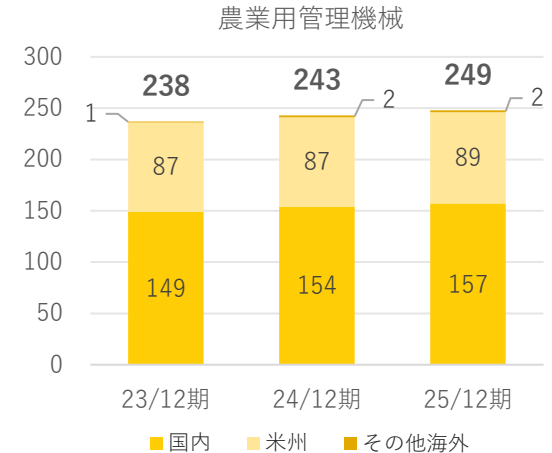
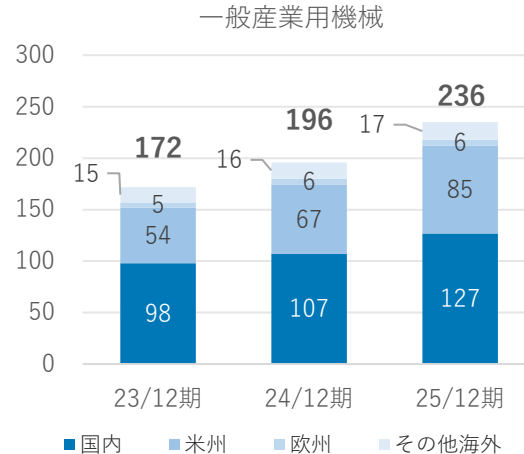
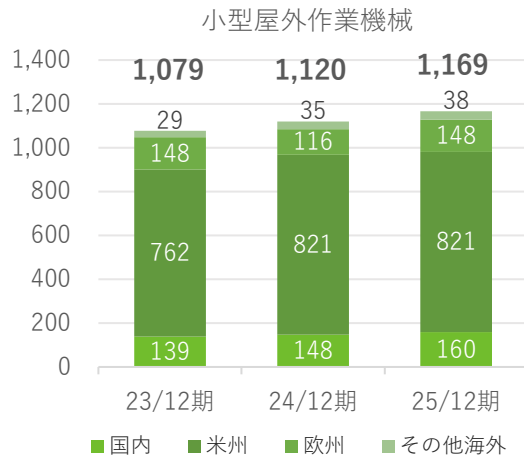
### 販売管理費

新規事業や新製品の開発投資、IT開発費用やマーケティング費用などの増加。

# 売上高目標（セグメント・地域別）

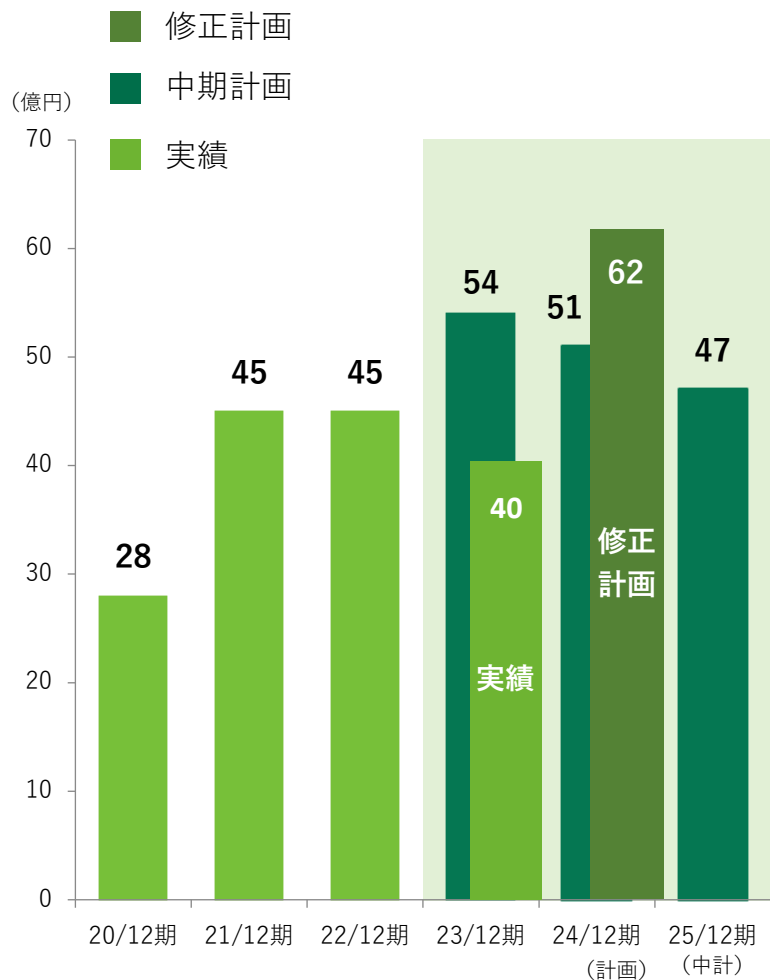


## セグメント・地域別売上高

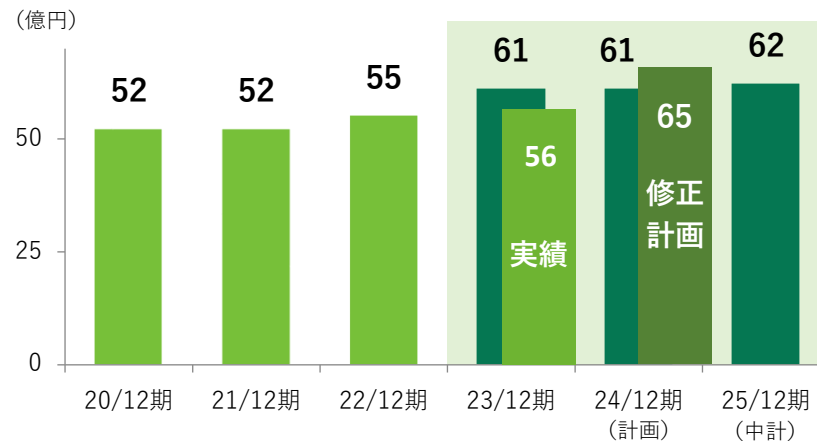


※主要セグメントに含まれない「その他」の売上が、23/12期 22億円、24/12期 21億円、25/12期 44億円 あります。

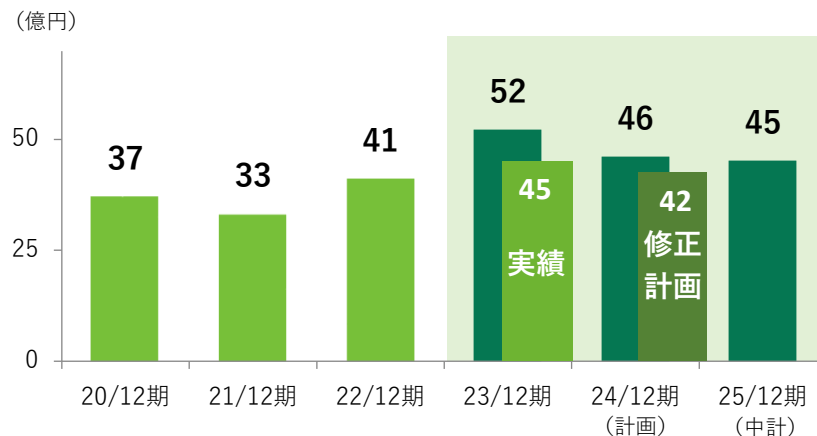
## 設備投資



## 研究開発費

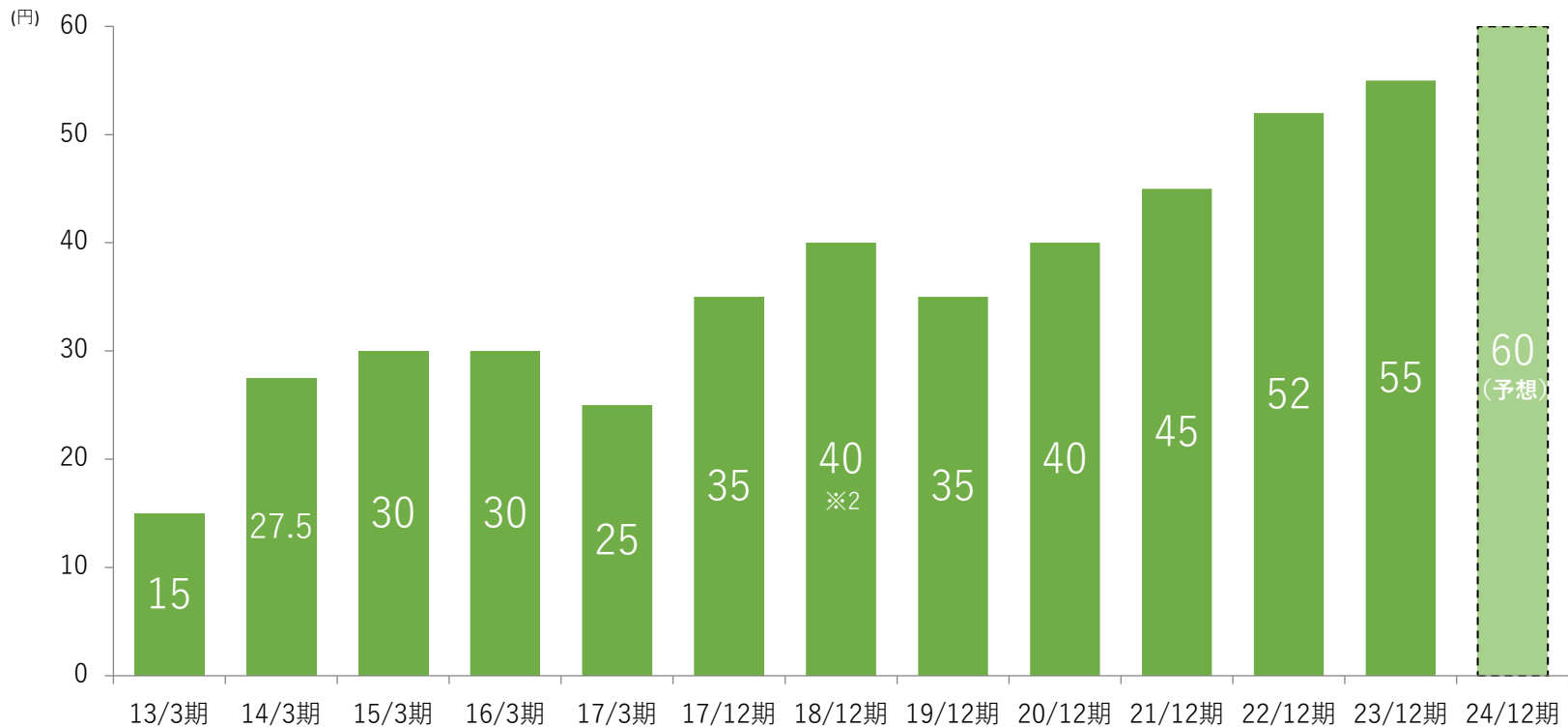


## 減価償却費



## 過去の配当実績に基づき、安定的な配当を継続

- 経営環境や業績および財務状況を勘案するとともに、株式市場の動向も注視して総合的な還元策を検討



※1. 2015年10月1日付で株式分割を行っております。各期を比較しやすいように、株式分割考慮後の金額を記載しております。  
 ※2. 設立10周年記念配当5円を含みます。



## トピックス①

## Shindaiwa® マルチハイブリッドキューブを初公開しました

2024年5月22日(水)～24日(金)に開催の「第6回 建設・測量生産性向上展(CSPI-EXPO 2024)」にて、マルチハイブリッドキューブを初公開しました。蓄電池と発電機を組み合わせることで、太陽光発電の課題である不安定な電力を安定供給可能な可搬型の発電システムであり、建設現場や災害時の電力供給源など、様々な場面での活躍が期待されます。

今後、取引先での実証実験を通じて販売開始を目指します。



## 国内初となる乗用型鶏舎向け防除機の販売開始

乗用タイプとしては国内初の鶏舎向け防除機「SSVH5020FC/P」を販売開始しました。

鶏舎内の消毒において課題であった作業時間を大幅に短縮するなど、省力化・効率化を実現する作業機としてご好評いただいています。



## エコーインコーポレイテッドがテレビCMの放映を開始

北米OPE市場における更なるブランド認知度向上のため、米国子会社のエコーインコーポレイテッドが、2024年4月より全米でテレビCMの放映を開始しました。

CMはメジャーリーグの試合や、米国のスポーツ専門チャンネルであるESPNにて放映されており、北米市場で展開するバッテリー製品シリーズ等を紹介しています。



## トピックス②

## フォーミュラE 2024 Tokyo E-Prixにて水素エンジン発電機を初稼働

i Labo株式会社と共同開発した水素エンジン発電機の実証機が、フォーミュラE 2024 Tokyo E-Prixにて初稼働しました。本実証機は、水素燃料を燃焼させて発電を行うため、運転時のCO2排出を限りなくゼロにする点が特徴です。イベント会場では10台のフードトラックに電力を供給し、午前11時から午後6時まで安定した連続稼働に成功しました。来場者からは、今後の水素インフラ整備加速へ期待が寄せられました。



## バイオ燃料に対応した発電機および溶接機19機種を発表

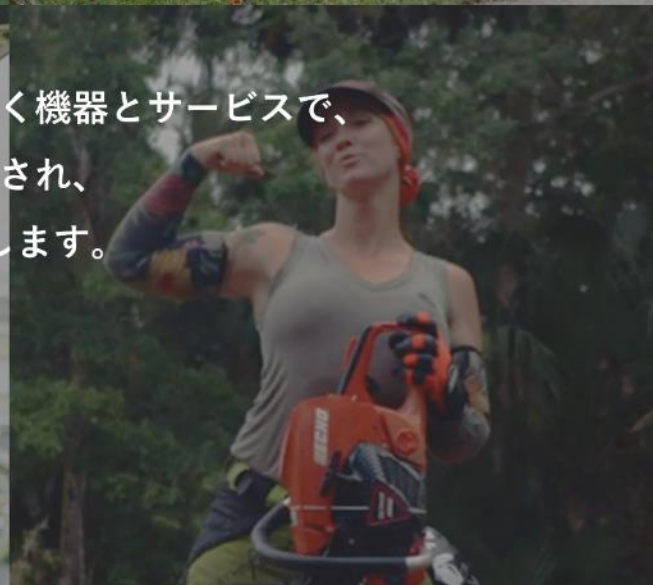
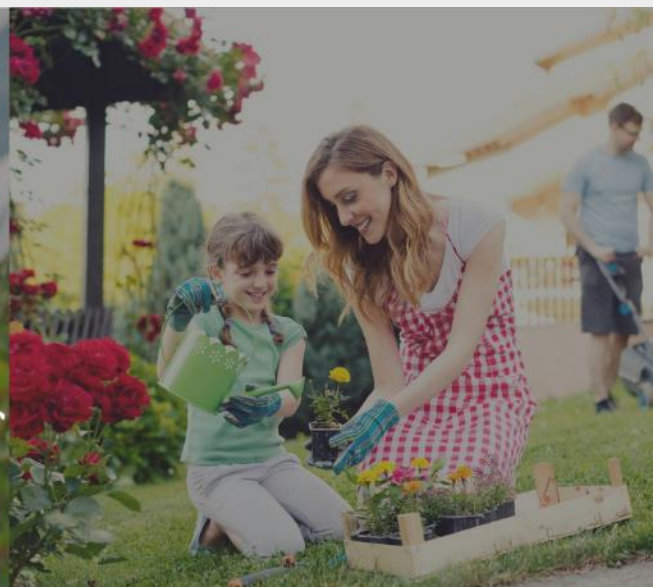
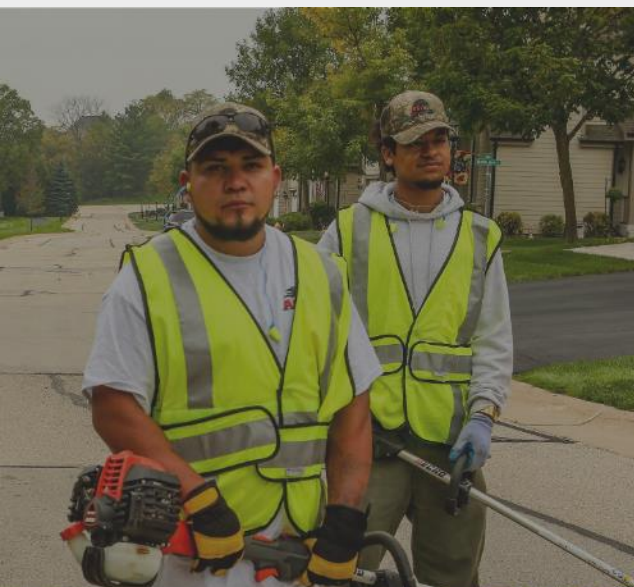
クボタ製エンジンを搭載したShindaiwa発電機9機種、溶接機10機種(合計19機種)において、バイオ燃料の使用に関する検証試験を完了。建設現場におけるより一層のカーボンニュートラル化に貢献します。



## 「パートナーシップ構築宣言」を策定・公表しました

取引先と共存共栄の関係を築くための取引方針を宣言する「パートナーシップ構築宣言」を策定し、公表しました。今後も、当社はサプライチェーン全体の共存共栄を進めるとともに、新たなパートナーシップ構築に向けて取り組みます。





# APPENDIX

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	151,400百万円 (2023年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	14社※ (国内6社・海外8社/2023年12月末現在)
従 業 員 数	3,241名 (2023年12月末現在/連結)
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2023年12月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社1社を除く

## やまびこの歩み




世界初となる手持ちブロワに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発

**KIORITZ** **ECHO**



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社が合併。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立

**KIORITZ** **shindaiwa** **ECHO**

 株式会社 共立

設立 1947年 (昭和22年)

**YAMABIKO**

株式会社やまびこ

設立 2008年 (平成20年)

新タイワ工業株式会社

設立 1952年 (昭和27年)



電動チェーンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発

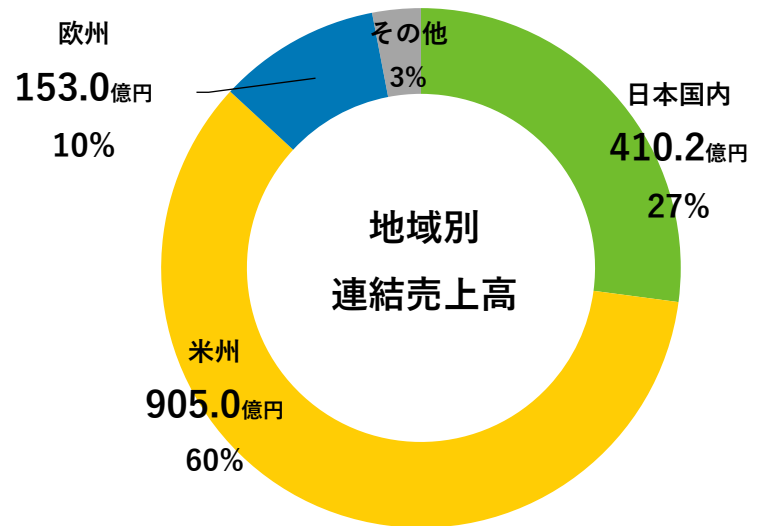
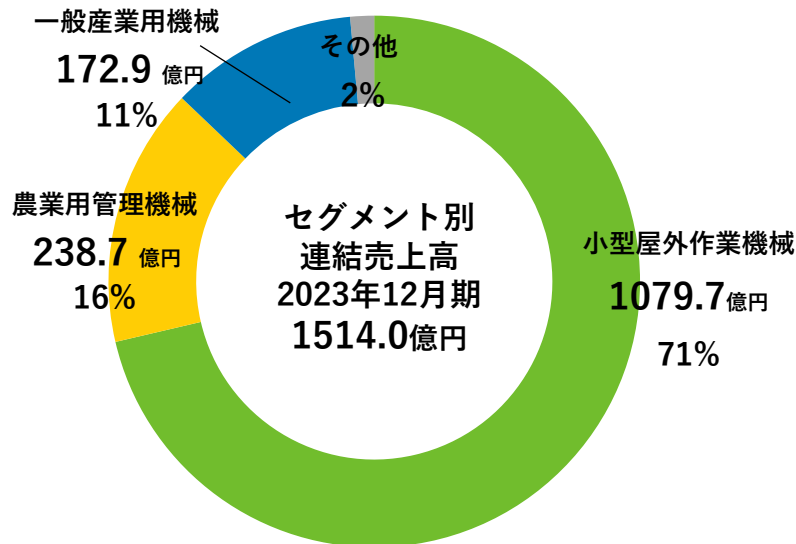
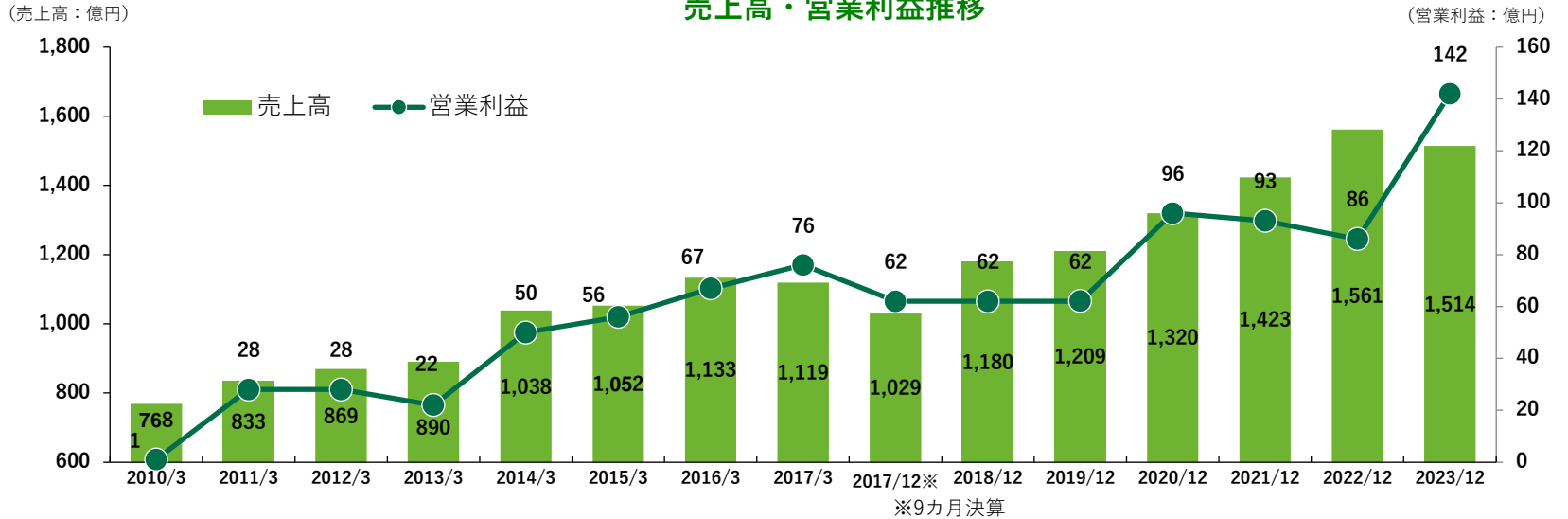
**shindaiwa**

### 社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする

# 業績推移と売上構成

## 売上高・営業利益推移



## 事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比

**71.3%**

（2023年12月期）

国内は農家・林業家の芝刈や伐木用として、海外はOPE※と称され、主に緑地管理を事業とする専門業者が庭や緑地の管理に使用する作業機として販売

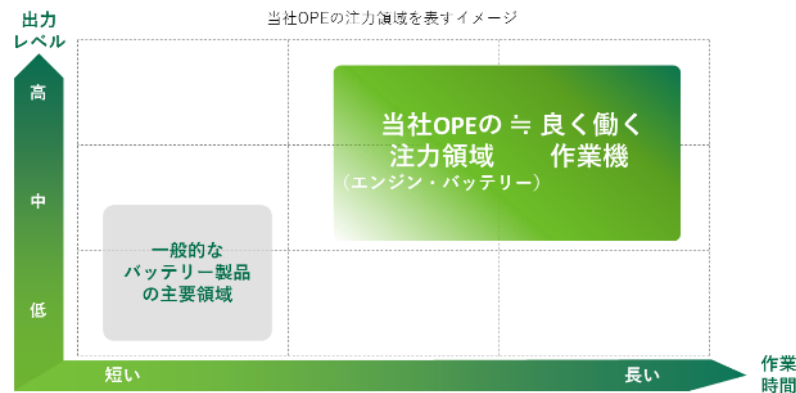
海外においては造園業など緑地管理を事業とする専門業者向けのプロユーザー市場と主に自家用で使用する住宅所有者向けの一般ユーザー市場に分類

製品は動力源にエンジンやモーターを搭載した屋外作業機のほか、ロボット芝刈機も含む



## 市場ニーズを満たす製品開発力

- 動力源を問わず、プロユーザー向けの高い作業効率を持つ製品を開発



$$\text{出力} \times \text{作業時間} = \text{仕事量}$$

## 技術的な強み

### 高品質・環境規制に適合したエンジン

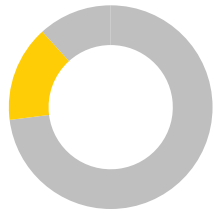
- 小型・軽量・高出力(手持機械に最適)・低コスト
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス

### 環境負荷低減と作業性の両立

- プロサイドに立った出力・制御技術に優れる電動製品
- 化石燃料から代替燃料への適用技術

※Outdoor Power Equipment





売上高構成比

15.8%

(2023年12月期)

国内における防除機械、  
北米における  
農作物収穫機械の製造販売



技術的な強み

培った防除技術にICTを融合し、  
スマート農業に貢献

送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

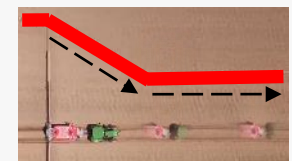


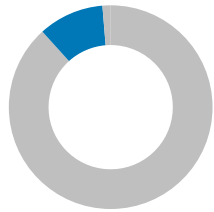
やまびこノズルの噴霧状態（扇形状）  
（平均粒子径 110~270 ミクロン）



ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術





売上高構成比

11.4%

(2023年12月期)

建設工事・防災・減災のほか  
資源採掘現場やイベント会場等で用いられる  
機械の製造販売



ハイブリッド溶接機

2023年度省エネ大賞受賞

CO<sub>2</sub>排出量を約**60%**削減  
脱炭素社会へ貢献する革新の溶接機

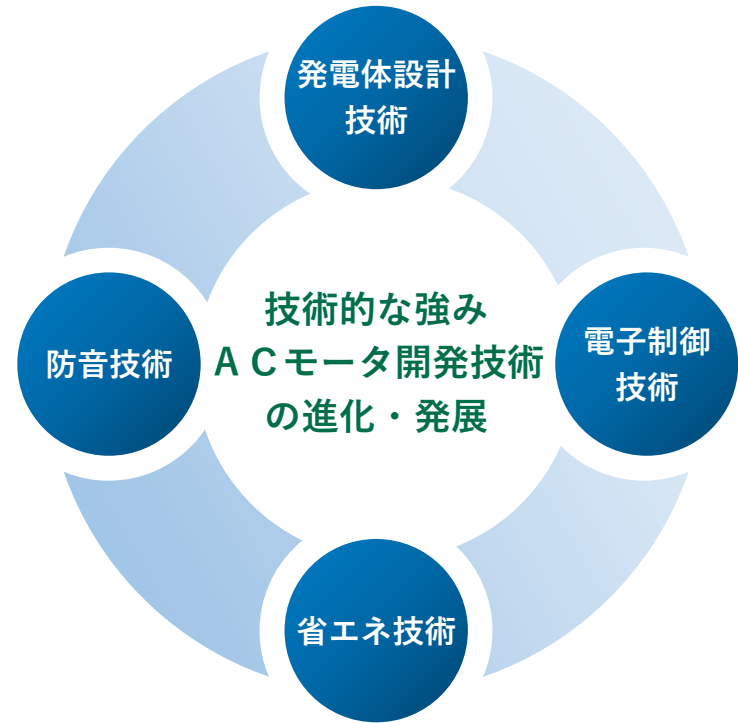


発電機



投光器

技術的な強み



世界初の三相/単相3線  
切替なし同時出力可能  
(米国特許・国内特許取得済み)

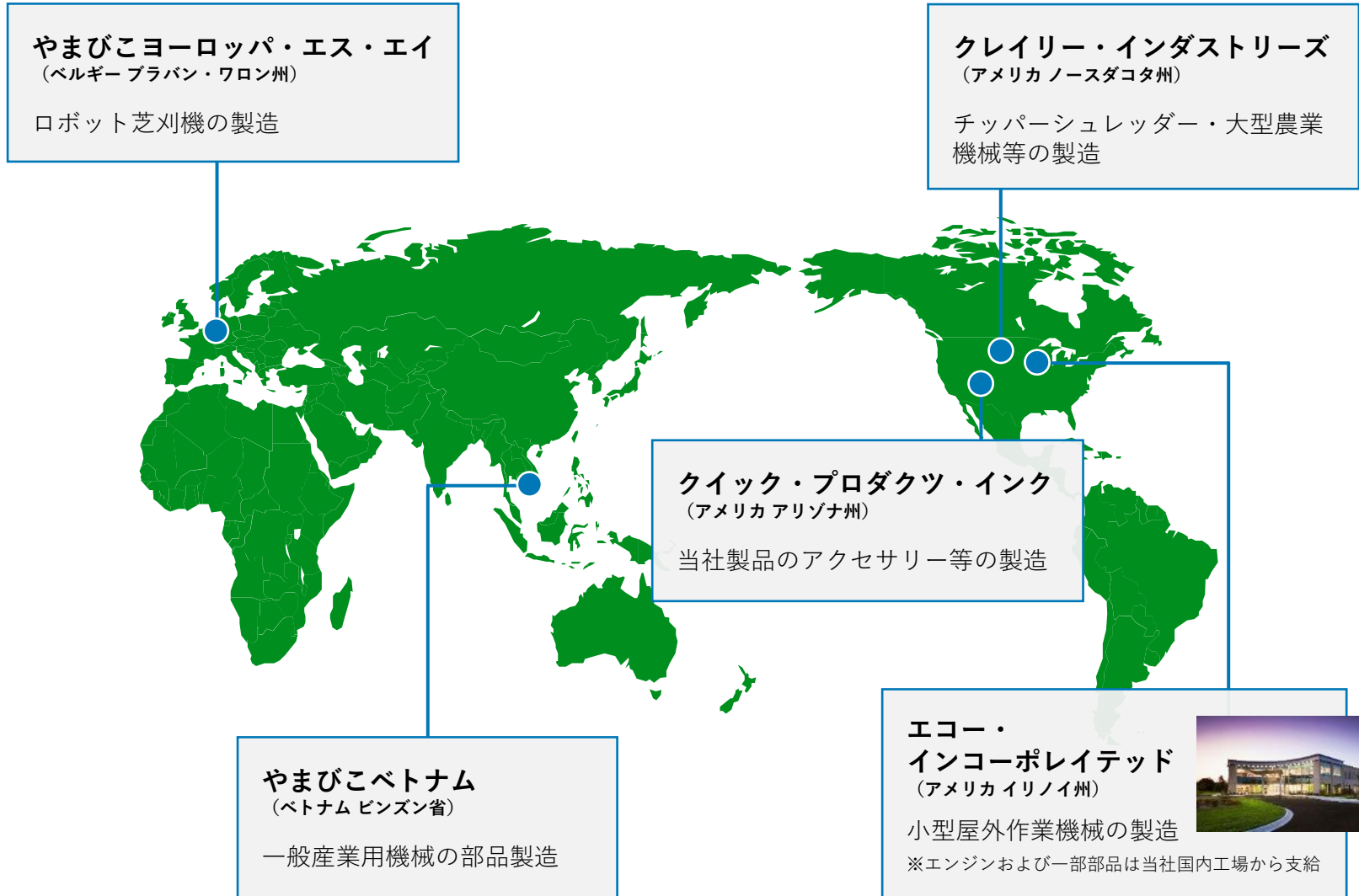


「ダブルECO」  
低燃費・騒音排出ガス効果に優れた2つのエコ機能の開発

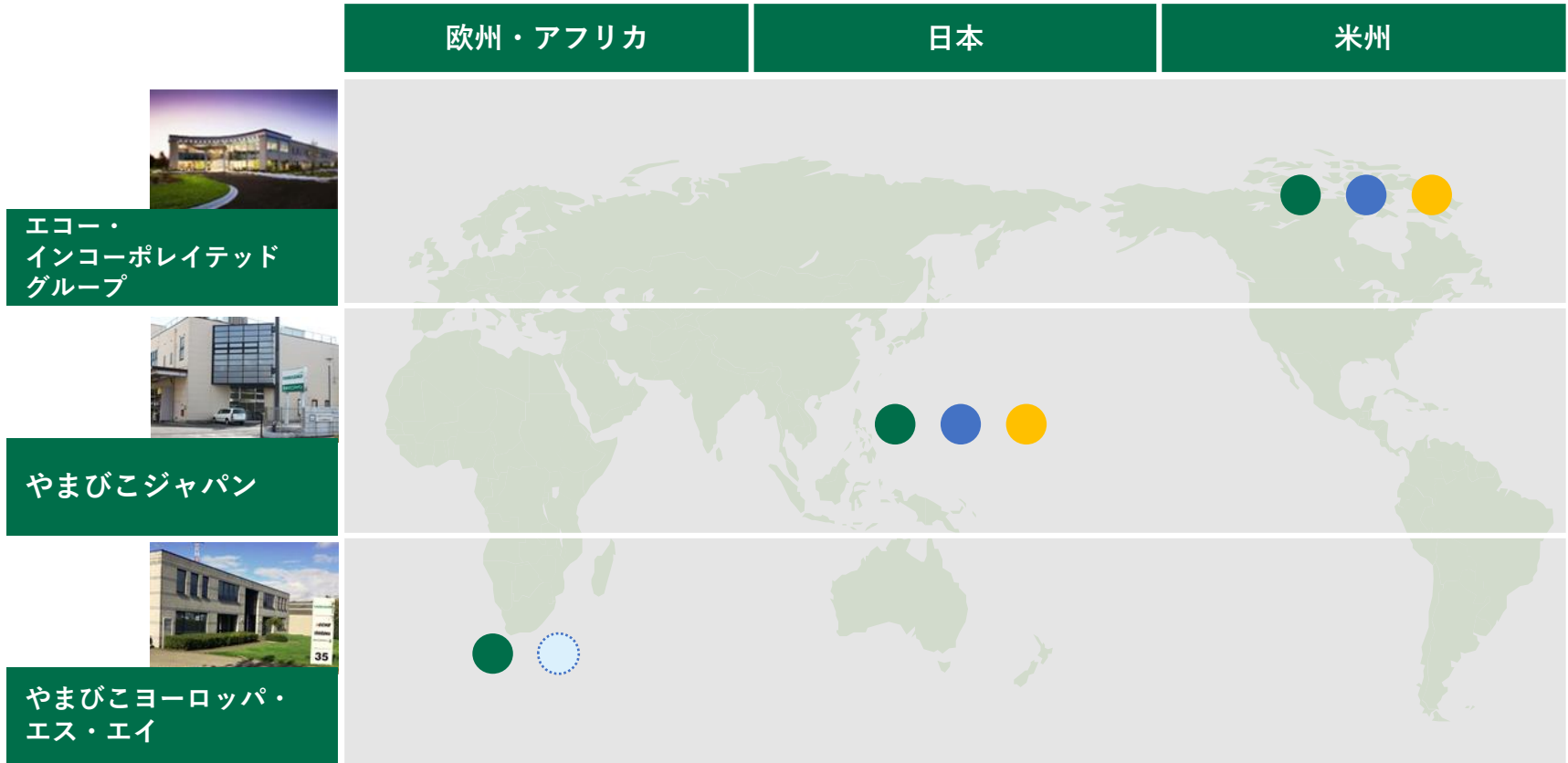
# 国内生産体制



# 海外生産体制



# 販売体制



● 小型屋外作業機械 (Outdoor Power Equipment)     
 ● 一般産業機械     
 ● 農業用管理機械

※アジア・中東・オセアニア地域にはやまびこ本社から販売

# やまびこジャパン株式会社

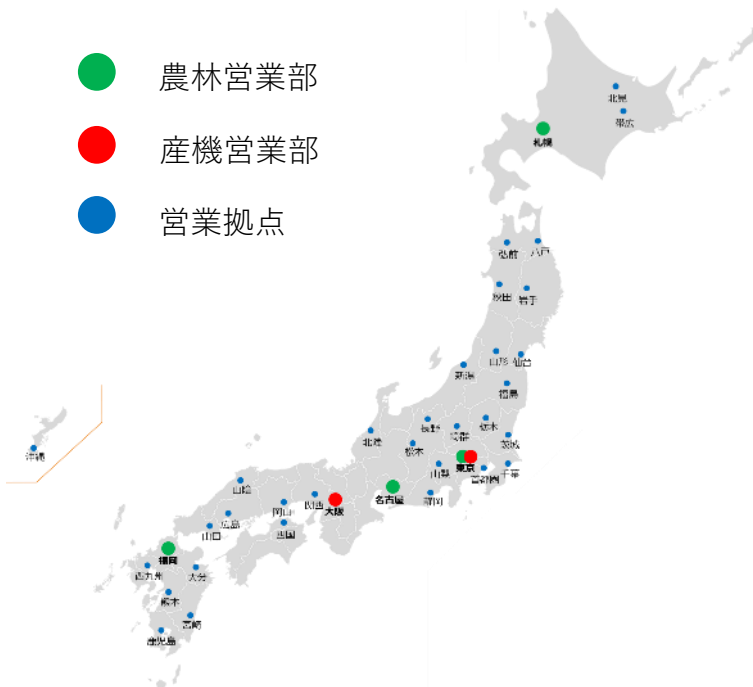
会社名 やまびこジャパン株式会社  
 設立 2017年6月  
 本社 東京都青梅市  
 拠点 6営業部 38拠点

## 日本市場における販売拠点

多様な販売ルートと充実の営業体制で  
 3事業3ブランドの販売を担う

### 国内販売拠点一覧

- 農林営業部
- 産機営業部
- 営業拠点



### 充実した営業体制

- 共立・新ダイワ・エコーの3ブランドを販売
- 国内6営業部、38拠点の充実した営業体制
- 全社員の7割が営業・サービスに従事

### セールス＝エンジニアとして迅速なサービス提供

- 高い専門性を有する社員がアフターサービスまで一貫して対応
- 農機具販売店やホームセンター、建機レンタル会社などの幅広い販売ルートを通じて多くのお客様に製品を提供



**会社名** エコー・インコーポレイテッド  
**設立** 1972年11月  
**本社** アメリカ・イリノイ州  
**子会社** 4社

## エコー・インコーポレイテッドグループ

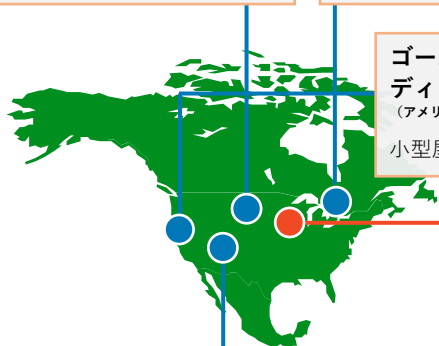
**クレイリー・インダストリーズ**  
(アメリカ ノースダコタ州)  
 大型農業機械等の製造・販売

**エコーパワーイクイップメント**  
(カナダ オンタリオ州)  
 小型屋外作業機械・農業機械の販売

**ゴールデンイーグル  
ディストリビューティング**  
(アメリカ カリフォルニア州)  
 小型屋外作業機械の販売

**クイック・プロダクツ・インク**  
(アメリカ アリゾナ州)  
 当社製品のアクセサリー等の製造

**エコー・  
インコーポレイテッド**  
(アメリカ イリノイ州)  
 小型屋外作業機械・一般産業用機械の  
 製造・販売



## 米州で50年続くECHOブランド

### OPE・産業機械・大型農機用補助機の 製造・販売拠点

#### やまびこグループ最大の販売会社

- 1972年の設立以来、米州市場で小型屋外作業機械を販売  
グループ売上高の6割を占める（2022年実績）

#### OPE市場をリードするECHOブランド

- パワーブロウ（1978年）や芝生の溝切機（1990年）など  
世界初となる製品を投入し常に市場をリード
- 「Xシリーズ」をはじめプロユーザーから信頼を集める



世界初のパワーブロウ



プロ向け製品群「Xシリーズ」

# YAMABIKO EUROPE SA

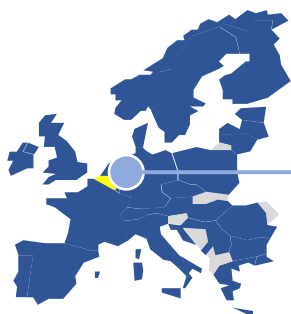
会社名 やまびこヨーロッパ・エス・エイ

設立 2002年3月

本社 ベルギー・ブラバン・ワロン州

## 欧州地域の販売拠点

欧州・アフリカの34か国に販売



やまびこヨーロッパ・エス・エイ

自動芝刈機の製造・販売  
および小型屋外作業機械の販売



## 欧州地域のOPE販売とロボット開発拠点

### 2021年に完全子会社化 欧州販売戦略を推進し売上拡大を図る

#### ベルギーから欧州全域へ展開

- 欧州・アフリカの34か国でOPE製品を販売
- 統一した販売戦略と代理店・販売店サポートにより更なる売上拡大を図る

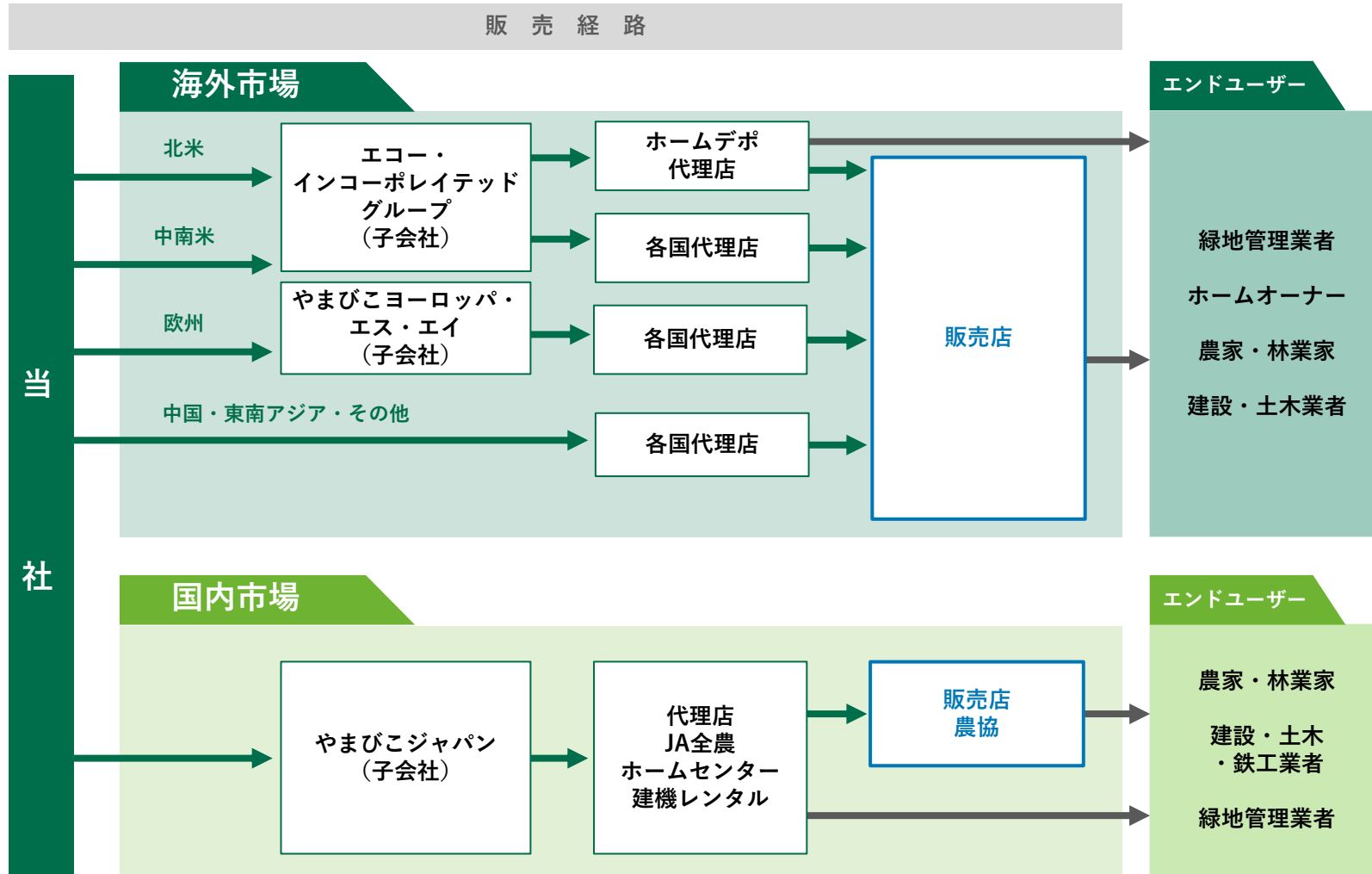
#### お客様の声を取り入れた開発・販売体制

- ロボット芝刈機の普及が進む欧州でマーケットインの開発を行い、業界をリードするロボット芝刈機を開発・販売





主な販売経路



## 国内エンドユーザー



農家

建設・土木・  
鉄工業者



林業家

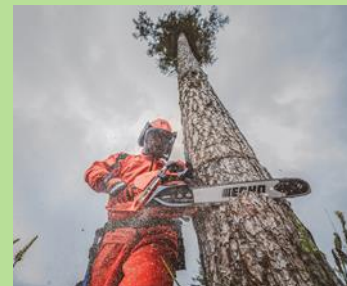
## 海外エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業家



建設・土木業者

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

## お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 企画・経理本部 経営企画部

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2

e-mail : [ir6250@yamabiko-corp.co.jp](mailto:ir6250@yamabiko-corp.co.jp)